

2022 年度 自己点検・評価報告書

日本語・日本文化教育センター評価分科会

2023 年 2 月

基準4 教育課程・学習成果

- ・ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。
- ・ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【1】2022年度の取り組み方針・改善計画（および中期的な改善計画）

<方針・改善計画>

- ①日本語研修課程では、毎週、前の週に習った範囲の試験を行っている。学生が前の週に習ったことをどれだけ理解しているか、その学習成果を把握するとともに、結果を翌週以降のシラバスに反映させ、効率よく学習が進められるように進度を調節している。2022年度は、本課程3クラスのシラバスをコーディネーター同士で検討し合い、より効果的に教育を行うためのシラバスづくりをしていきたい。
- ②特別履修課程では、日本語能力試験のレベルに合わせ、各科目を開講している。その内容や方法が適切か、さらに工夫すべき点はないか点検するとともに、改善・向上に取り組むたい。

<最終報告までの達成目標>

- ①シラバス作成会議を2週に1回程度行い、本課程3クラスのシラバスをコーディネーター同士で検討し合う。
- ②各科目の内容や方法について、教員同士で話し合うFDを開催し、その内容や方法が適切か、さらに工夫すべき点はないか等点検する。

【2】2022年度の取り組みの点検・評価と2022年度以降の方針

【2022年度の取り組みの点検】

<方針・改善計画>①では、「2022年度は、本課程3クラスのシラバスをコーディネーター同士で検討し合い、より効果的に教育を行うためのシラバスづくりをしていきたい」とした。本年度は隔週でシラバスの検討を実施し、より効果的なシラバスづくりに取り組むことができた。

<方針・改善計画>②では、「特別履修課程では、日本語能力試験のレベルに合わせ、各科目を開講している。その内容や方法が適切か、さらに工夫すべき点はないか点検するとともに、改善・向上に取り組むたい。」とした。本年度は主に各レベルの中心科目を点検し、「日本語基礎」「日本語総合入門」「日本語総合Ⅰ」「日本語総合Ⅱ」「日本語読解ⅢA」「日本語読解ⅢB」「日本語読解ⅣA」「日本語読解ⅣB」の小テストの内容と実施回数、フィードバックの方法の改善に取り組んだ。

【今後の課題および2023年度以降の方針】

<方針・改善計画>①については、さらなる改善・向上を目指していきたい。

<方針・改善計画>②については、その他の科目の点検および改善・向上に順次取り組んでいきたい。

基準6 教員・教員組織

- ・ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。
- ・ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【1】2022年度の取組み方針・改善計画（および中期的な改善計画）

<方針・改善計画>

本センターには、専任教員6名、非常勤講師12名が所属している。2019年度までは年10回程度、日本語教育に関するFD活動（研究・教育活動発表会）を行ってきたが、2020・2021年度のFDはオンライン授業の方法に関するものがほとんどであった。2021年度秋学期からは、日本語教育に関する内容でFD活動を再開した。2022年度は、FD活動の回数を増やすとともに、内容を充実させ、教員の資質向上を図っていききたい

<最終報告までの達成目標>

年10回程度のFDを開催し、一人一回以上の発表ができるようにしたい。その取り組みによって、研究・教育の問題意識を高め、授業の質向上につなげていきたい。

【2】2022年度の取組みの点検・評価と2023年度以降の方針

【2022年度の取組みの点検】

<方針・改善計画>では、「2022年度は、FD活動の回数を増やすとともに、内容を充実させ、教員の資質向上を図っていききたい」とした。本年度はFD活動（研究・教育活動発表会）の実施回数を昨年の5回から9回に増やすことができた。

<最終報告時点での目標達成状況>

「年10回程度のFDを開催し、一人一回以上の発表ができるようにしたい。その取り組みによって、研究・教育の問題意識を高め、授業の質向上につなげていきたい」については、ほぼ達成できていると思われる。

【今後の課題および2023年度以降の方針】

「その取り組みによって、研究・教育の問題意識を高め、授業の質向上につなげていきたい。」については、どう研究・教育の問題意識を高めることができたのか、また授業の質向上ができたのか具体的に検証する必要がある。また、これは尽きることのない課題であり、今後もさらに努力していく必要がある。

基準7 学生支援

- ・ 学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。
- ・ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【1】2022年度の取組み方針・改善計画（および中期的な改善計画）

<方針・改善計画>

国際部に留学生サポートセンターを設置して、在籍管理のみならず、生活全般や学習などの支援を行っている。コロナ禍では、オンライン相談窓口も設置して、来日できない学生なども利用できるようにしているが、対面に比べ繋がりが薄くなるため、オンラインイベントなども活発的に行い、日常的な接点を引き続き作っていく。

<最終報告までの達成目標>

留学生の満足度の向上を目指し、アンケート調査を行う。

【2】2022年度の取組みの点検・評価と2023年度以降の方針

【2022年度の取組みの点検】

オンライン窓口は留学生ニーズに応えられる取り組みであったと自負している。入国緩和により来日が可能になり多くの留学生が来ることができた。対面授業も始まり、賑わいも戻ってきている。コロナ対策をとりながらも、多くのガイダンスやイベントを対面で行うことができ、アンケートなどから満足度が向上していることも見て取れた。

【今後の課題および2023年度以降の方針】

引き続き感染症対策等には気をつけながらも、日常に戻す工夫をするが、出身国・地域により感染症への敏感さに違いがあるので、配慮は続けたい。

基準9 社会連携・社会貢献

- ・ 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。

【1】2022年度の取組み方針・改善計画（および中期的な改善計画）

<方針・改善計画>

以前より実施している地域の小中学校への留学生派遣を継続していく。コロナ禍で実施希望校が減っ

たが、徐々に回復傾向にあるため、年間の目標を立てて取り組んでいく。

<最終報告までの達成目標>

今年度は、年間5校以上の小中学校への派遣を目指す。

【2】2022年度の実施の点検・評価と2023年度以降の方針

【2022年度の実施の点検】

小中学校への留学生派遣依頼もコロナ以前に戻ってきた。2022年度は4校で実施。

【今後の課題および2023年度以降の方針】

八王子市や近隣自治体と連携し、4校を目標に引き続き地域貢献の意義を込めた留学生派遣を続けていきたい。

3. 学生の意見聴取

・ 授業、学生支援に関すること全般について

【1】2022年度の意見聴取を踏まえた2023年度以降の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

コロナ以前の生活に戻っていくことは喜ばしいことであるが、例えば発声が必要な授業や、二人部屋に戻す寮生活などにおいて、不安や不満が出てくることも想定される。学生の不平、不満にはしっかり対応し、一つでも不安を取り除けるように努力を続けたい。